

# 第 1 回高知県教育委員会協議会 会議録

## 1 開会及び閉会に関する事項

開会 平成 28 年 11 月 14 日 (月) 18 : 30  
閉会 19 : 30

## 2 場所

高知共済会館 3 階「大ホール 桜」

## 3 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 水代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員	平田 健一

## 4 高知県教育委員会事務局の出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課課長補佐	隅田 昌宏
〃	教育政策課チーフ	津野 哲夫
〃	教育政策課指導主事	石丸 太郎
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	坂本 寿一
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	松井 竜太
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良

## 5 傍聴

37 名

## 6 内容

### 【開会前事務連絡】

事務局	<p>失礼いたします。開会に先立ちまして、事務局から事務連絡をさせていただきます。2点ございます。</p> <p>まず1点は、本日の資料でございますけれども、傍聴の皆様もご確認ください。3点ございます。一つがホッチキス止めで、「第1回高知県教育委員会協議会 次第」と記した資料。それから、「新中高一貫教育校」のリーフレット、それから、「須崎で始まるそれぞれの夢」という高吾地域拠点校のリーフレット、この3つでございます。</p> <p>それから、受付の時に「高知県教育委員会傍聴規則」をお渡ししております。この規則に従いまして、議事進行の妨げになりますような行動、私語、拍手等は謹んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
-----	---

## 【開会】

教育長

はい。それでは、時間がまいりましたので、ただ今から、校名に関する「第1回高知県教育委員会協議会」を開会させていただきます。

開会にあたりまして、私の方から一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

今日を含めまして、3回の予定で、この教育委員会協議会を開催させていただく予定でございます。

このテーマといたしましては、高等学校再編に伴う2つの統合校、すなわち、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合によります新たな中高一貫教育校、それから、須崎高等学校と須崎工業高等学校の統合によります、高吾地域の拠点校、この2つの校名を決定をするということで開催をさせていただくものでございます。

県立高等学校の再編振興計画につきましては、ご案内のとおり、平成26年10月に策定をさせていただきましたけれども、その過程で、統合校に関する校名についての様々な議論があり、結果といたしまして、再編振興計画では、統合するということや、その目指す学校の姿といったようなことは、計画に盛り込ませていただいたうえで、校名等の取り扱いについては、学校関係者の意見とともに、県民の意見も聴取しながら、県教育委員会で検討し決定すると、ということとさせていただいております。

その後、再編振興計画をベースに、創設する学科の、より具体的な教育課程ですとか、あるいは施設整備等について検討を進めまして、今日お配りをさせていただいております、このリーフレットのような形で、学校の具体的な像が明らかになってきたというところまでまいりまして、そういったことをベースに、校名の検討をスタートさせていただいたということでございます。

この検討にあたりましては、できるだけオープンに、かつ、その客観性を担保される形での検討が必要という考えから、まずは、第三者的な検討委員会におきまして、ゼロベースから議論をいただき、校名候補を選んでいただいたうえで、それを受けて、県教育委員会として決定をさせていただくということにさせていただいたところでございます。

この校名候補の選定をお願いいたしました検討委員会では、今年2月から9カ月間にわたり、8回にわたる会を開催していただきました。

また、そのなかでは、学校関係の皆様からのご意見も伺い、また県民の皆様からの意見を聴く公募を行い、また、学校に実際に訪問もしていただくといったような形で、丁寧に手順を尽くして、議論を進めていただいたところでございます。

その報告書を、先週の木曜日、11月10日に提出をいただきましたので、これから教育委員会として、検討をさせていただくということでございます。

県の教育委員会といたしましては、大変ご苦勞をいただいて検討いただいた、検討委員会の報告書でございますので、これをしっかりと受け止めると同時に、学校関係の皆様、あるいは公募に応じていただいた皆様の思いも、しっかりと受け止めた

委員	<p>うえで、2つの統合校それぞれにふさわしい校名を決定させていただきたいというふうに考えております。</p> <p>また、本日、意見を述べるためにご出席をいただきました両校の関係の皆様、本当にご苦労さまでございます。</p> <p>今回が、皆様から校名についてのご意見を伺う、最後の機会ということになるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これから協議を始めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは会の前に、議事録への署名人は、久松委員、お願いいたします。</p> <p>はい。</p>
----	---

### 【これまでの検討経緯について】

教育長	<p>それでは、まず、これまでの校名に関する検討の経過について、事務局から説明をしてもらいます。</p>
事務局	<p>高等学校課再編振興担当企画監でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料の方をお開けください。1ページの方に資料1とございます。</p> <p>最初に、「県立高等学校再編振興計画 前期実施計画」における概要から説明させていただきます。この計画は、平成26年10月に策定いたしまして、その中で定めた統合スケジュールと校名に関する部分を、再確認の意味も含めまして、ご説明させていただきます。</p> <p>前期実施計画で決定いたしました県立学校の統合は、2つございます。</p> <p>一つは、高知市及び周辺地域におきましても、今後の生徒数の減少などに対応し、より良い教育環境を確保するために、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合を決定させていただきました。</p> <p>統合のスケジュールといたしましては、点線の枠の中にございますように、新たな中高一貫教育校の併設中学校が、現在の高知西高等学校の敷地に開校いたしますのが、平成30年の4月となっております。</p> <p>高知南中学校・高等学校につきましては、平成33年度から中高同時に募集停止をいたしまして、平成35年度に両校の統合が完了というスケジュールになっております。</p> <p>また、平成30年度には、新たな中高一貫教育校の併設中学校に入学いたします生徒は、平成33年度に、新しい併設高等学校のグローバル科に進学という予定になっております。</p> <p>再編振興計画の中での、校名に関する決め事といたしましては、その枠の下、【統合の方法】のアンダーラインのところがございますが、「統合後の新たな中高一貫教育校の校名等の取扱については、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら、平成28年度末までに県教育委員会で検討し、決定する。」と記載しております。</p>

もう一つの統合校でございます、須崎工業高等学校と須崎高等学校は、同じく生徒数の減少に伴う適正規模の維持などのために、統合を決定させていただきました。

平成 28 年 2 月に県教育委員会で決定いただきました、工業科 6 専攻、それから、普通科といたします学科改編の基に、3 学年が揃います平成 31 年度に統合完了というスケジュールになっております。校名の取扱いにつきましては、一番下のアンダーラインでございますように、新中高一貫教育校と同じ内容で定めております。

次の資料は、少し飛んでいただきまして、4 ページをお開けいただき、その真ん中ほどでございます、統合校の校名候補の検討経緯について、ご説明をさせていただきます。

先ほどの再編振興計画におけます決め事を、具体的に検討していくために、教育関係者など外部委員 7 名による、検討委員会を本年 2 月に立ち上げました。

第 1 回の会議で、統合に至る経過、それから、統合校の教育内容などをご説明させていただきました、スケジュールを決定しました。

その際、スケジュールにつきましては、先程ご説明しました再編振興計画で、上の枠の中にごございますように、平成 28 年度末までに決定としておりましたが、その下に丸（○）がございますが、3 つ目の下に括弧で記載しておりますように、統合に向けた準備を考えますと、平成 28 年 12 月議会までには校名に関する議案を提出する必要があるとしたスケジュールを、この検討委員会で決定しました。

次の第 2 回の会議におきまして、校名候補の決定方法について、また、校名候補につきましては、統合校 4 校の卒業生及び保護者代表者からご意見をいただきました。

次の第 3 回の会議では、資料のずっと後ろの 27 ページに、参考資料 2 と付けております。こういった資料を使いながら、他県の事例を参考に、校名候補の決定方法などについてご協議をいただきました。

それから、資料 4 ページの方に戻っていただきまして、また、6 月と 7 月には、統合校 4 校の学校訪問も行っていただき、各校の沿革、それから教育内容などの説明と質疑、それから授業風景の視察などを行っていただきました。

第 4 回の会議では、再編振興計画に定めております「県民の意見を聴く」ということについて、公募により実施するということを決定いたしまして、その際の具体的な内容を募集要項として、第 5 回の会議で決定いたしました。

その後、9 月から公募を実施いたしまして、検討委員会委員のご意見もあったことから、県広報誌、それからテレビ・ラジオなど、県の既存の広報枠を活用することなどで、幅広く広報を行いながら校名候補を募集いたしました。

その後、第 6 回の会議でその公募結果を確認していただき、絞り込み方法を協議いたしました。

それから、第 7 回の会議では、再度、卒業生及び保護者の代表者の皆様に、校名候補の絞り込み方法、それから校名候補についてのご意見をお聴きしたうえで、11 月 8 日の第 8 回の会議で、校名候補を決定していただいたところでございます。

	<p>次に、4ページの3の、公募によりご応募いただいた校名候補の数といたしましては、新中高一貫教育校は145候補、それから、高吾地域拠点校は83候補でございました。なお、応募いただきました候補のすべてを、参考資料1-1としまして、資料の11ページから26ページまでにすべてを掲載しておりますので、また後ほどご覧いただけたらと思います。</p> <p>それから、資料の3ページに戻っていただきまして、そこに記載がありますように、11月10日、検討委員会の西郷会長の方から田村教育長に、この報告書が提出されました。</p> <p>それから、資料が前後しますが、もう一度5ページの方をお開けください。ここで、提出されました校名候補をご説明させていただきます。</p> <p>上から順に、検討委員会が優先順位を付けた順番に並んでおります。</p> <p>まず最初に、1番目としまして、正式名で申しますと、「高知県立高知国際中学校・高等学校」。</p> <p>それから、2番目としまして、「高知県立高知西中学校・高等学校」。</p> <p>それから、3番目としまして、「高知県立高知立志館中学校・高等学校」。</p> <p>それから、4番目としまして、「高知県立高知西南中学校・高等学校」の4つでございます。</p> <p>また、検討委員会から提出されました「校名候補とする理由」は、右の方に記載しておりますので、ご覧いただけたらと思います。</p> <p>それから次に、資料の6ページの方をお開けいただきまして、次に、高吾地域拠点校の校名候補について、ご説明させていただきます。</p> <p>校名候補としましては、「高知県立須崎総合高等学校」の一つが提出されております。校名候補とする理由は、記載のとおりとなっております。</p> <p>以上が、検討委員会から提出されました校名候補の説明でございます。</p> <p>それから、資料、次の7ページが公募を行った際の募集要項、次の8ページぐらいになりますが、検討委員会の設置要綱、それから、次の9ページが検討委員会の委員名簿となっております。この9ページまでが、検討委員会からの報告書というふうになっています。</p> <p>なお、参考資料としましては、先ほど申しました11ページからが、公募結果の、応募いただいた校名候補一覧表。それから27ページが、先ほど申しました、近年の他県等の統合校の事例のまとめた表と。それから最後が、統合校の学校パンフレットをそれぞれ添付しております。</p> <p>以上で私からの資料の説明は終わります。</p>
教育長	はい。今の説明に対してご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。
各委員	( 質疑なし )

【校名に関する統合対象校の学校代表からの意見聴取】

教育長	<p>特にご質問がないようでございますので、それでは、次第に従いまして、学校代表からの意見をお伺いしたいと思っておりますが、須崎工業高等学校と須崎高等学校につきましては、既に先ほど説明がありましたとおり、「須崎総合高等学校」ということで、両校関係者も合意をし、そういうことで、一本で候補名が挙がっているというようなこともございまして、両校関係者からは、重ねてこれ以上意見を述べることはないということでございますので、もう学校代表からの意見をお伺いしますのは、高知南中学校・高等学校と、高知西高等学校の関係の皆様からということにさせていただきたいと思っております。そういうことでよろしいでしょうか。</p>
各委員	( 了承 )

ア 高知南中学校・高等学校関係者（校友会代表、保護者代表）

教育長	<p>それでは、学校代表の方からご意見をお伺いしたいと思っておりますが、まずは、高知南中学校・高等学校の関係の皆様からご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>時間は、質疑を含めて30分程度ということをご予定しておりますが、遮るといことはございませぬので、そこを目途にいろんなお話をいただきたいというふうに思います。</p>
高知南中高校友会代表	<p>高知南高校、校友会の者です。今回、校友会会長が所要のため、この会に残念ながら参加することができませんので、校友会の思いを、代わりにお伝えさせていただきます。不慣れなので、お聞き苦しい点があると思っておりますがご容赦をください。</p> <p>今まで、両校とも校名に関しての思いは述べさせていただきました。今回は、この9カ月間、検討委員会の方々が議論を重ねて決まった校名候補の決定を受けて、私たちの思いを発言させていただきます。</p> <p>今回の校名に関する検討委員会の結果から、「高知国際」「高知西」「高知立志館」「高知西南」という順位付けがなされました。検討委員会という第三者の立場から、新たな校名の選択が必要であることが証明されました。</p> <p>県民からの応募の結果は、検討委員会の皆様を含め、我々も承知しております。ただし、この結果は、高知南高校よりも多くの卒業生からなる高知西高校の方が、一般の方に投票の依頼を行った結果によるものと考えています。</p> <p>高知西の校名の選定理由の一つとして、経費の削減ということが挙げられています。経費の削減は、重要な検討項目の一つではありますが、優先順位はそこではありません。統合校とすること自体が、災害に対する安全性も含めた、将来に向けての経費削減につながると解釈しています。経費の削減を優先するのであれば、本日を含めた、これまでの会議並びに、校名に関する検討委員会の設置を行う必要はなかったと思っております。</p> <p>これから新たな統合校で学ぶのは、卒業生ではなく、夢と希望に満ちた若い学生たちです。国際バカロレアを取り入れた、新たな校名による伝統をつくっていくべきではないでしょう</p>

	<p>か。</p> <p>少子化による統合校の先例として、高知市の追手前小学校と新堀小学校は、新堀小学校の敷地にありながら、「はりまや橋小学校」と命名されました。</p> <p>以上のことから、教育委員の皆様には、この9カ月間、多大な時間を費やしていただいた、校名に関する検討委員会の結果を尊重し、中立の立場から選ばれた校名を決定していただくことを希望します。</p> <p>その中でも、高知南中高校校友会としては、校名に関する検討委員会でも上位になった、「高知国際」を推薦いたします。教育委員の方に考えていただきたいのは、もし、高知南中・高校の敷地に、新たな新設中高一貫校が新設されるのであれば、校名が高知南中学校・高等学校と命名されるのでしょうか。</p> <p>最後に、これから先、未来の高知を担う生徒たちの、新しい学校の出発点となるにふさわしい校名の決定となることを、関係者の一人として強く要望します。</p> <p>教育委員の皆様には、校名に関する検討委員会のご意見を尊重していただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、どうぞ続けてお願いします。</p>
<p>高知南中高 保護者代表</p>	<p>保護者を代表いたしまして、PTA会長です。よろしくお願ひいたします。この度は、教育委員会協議会での発言の場をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>早速ですが、新中高一貫教育校となる校名について、次の3点を発言させていただきたいと思っております。</p> <p>まず第一に、新中高一貫校となる校名につきましては、新たな校名を希望したいというふうに思っております。</p> <p>これまで多くの関係者と協議してまいりました。統合校は、国際バカロレアの導入により、高い志を持ってたくましく行動し、地域や国際社会の発展に貢献できる、グローバル人材を目指す学校となります。</p> <p>それは、高知におけるグローバル教育の推進校であり、全国公立中学校・高等学校の先頭を行く、国際バカロレアの導入校として、国際的な時代に先駆けた新たな教育を展開、国際的な表記としても分かりやすく、理解しやすい。また、新中高一貫教育校の教育目標、内容を、目指すところを考えた校名であることがいいかなど、いうふうに思っております。</p> <p>また、キャリア教育、探究型学習、英語教育プログラムなど、高知県のグローバル教育を牽引し、国際的に活躍する人材を育成するということを示す学校としても、両校のこれまでの実績を踏まえて、これから目指す高校にも合致する学校として、期待しているところです。</p> <p>新たな教育スタイル、将来の子どもたちの学校の姿を考えた時、新たな校名とすることが望ましく、今回、多くの県民の皆さんから、公募に寄せられた名称や理由からも、新たな学校に対して、非常に期待していることが伺えました。そういった意味では、客観的な一例として、国際やグローバルといった名称をつけている案も多く見られています。</p>

また、先に行ったパブリックコメントでも、多くの県民の皆様から、国際的な学校、グローバル教育、バカロレア教育に対して、非常に高い関心と希望するご意見があり、高知県グローバル教育シンポジウムにおいても、その関心の高さを知るとともに、パネラーの皆様からも、日本初となる公立学校での取組、また、高知の教育改革の期待と希望を伺えることができました。

第二に、この度、校名検討委員会で各委員の皆様から絞り込まれました、校名候補の順位や選定理由を尊重し、校名を決定していただきたいというふうに思っております。

新中高一貫教育校に関する公募では、約 150 におよぶ校名案、延べ約 8,500 人の方々から公募があり、県民の方々の関心が非常に高かったことを感じました。誠にありがたく思います。

そして、多数の公募の中から 8 案を絞り込み、最終的に 1 位「高知国際」、2 位「高知西」、3 位「高知立志館」、4 位「高知西南」の、この順に 4 つの校名案が絞り込まれました。

この結果については、6 人中 5 人が 1 位に「高知国際」、また、一人の委員さんも 2 位として、「高知国際」を絞り込まれております。その理由としても、グローバル教育の推進、国際バカロレアの導入校、高知という地名、国際というグローバルな教育目標、一目瞭然で分かる名称など、先ほど述べました内容に見られる、キーワードを挙げられております。

また、国際的なプログラムを両校とも取り入れてきた経緯があり、今後も益々そのプログラムを活かして、世界で活躍する生徒を輩出する学校になってほしいとの思いや、高知の未来を見つめ、トップクラスの県立学校となるだろうと、希望と期待を込めて提案した委員の方もいらっしゃいました。

特に、校名検討委員会の委員の皆様にとっては、多数の公募の中から、短い時間での絞り込みには、大変なご苦勞があったことと思ひ、また丁寧なご意見を伺えたことは、誠にありがたく思っております。

第三に、新中高一貫となる保護者や、関係者としての思いを大切にしてほしいということです。新中高一貫教育校は、中・高と 6 年間をかけて人材を育て、将来の高知、また、国際社会を担う役目となる学校となります。

高等学校では、バカロレアに基づくグローバル科の 80 人、普通科の 200 人が同じ学び舎で教育を受けます。

グローバル教育、国際教育、探究型教育など、高知をこれから代表し、牽引していく子どもたちのことを考えると、学校は現役で通う生徒が教育を受けるための良き環境をつくり、学校はこれからの入学を目指す中学生や小学生、また保育園児が、将来、高知や日本、また国際社会のなかで夢や希望を自ら創造することのできる場であり、未来が見える志づくり、学校はこれから生まれてくる子どもたちへの学校であり、その子たちが文化や伝統を構築していく場をつくること。

私たち保護者や関係者は、新中高一貫教育校で学ぶ、これからの子どもたちを応援していきます。校友会の意見とも同じです。

私たちは、人生の中で、新たな教育環境を目指す学校名を考える機会を与えられました。そこには、未来に向けて伝えることのできる校名にすることではないでしょうか。



	<p>高知に留まらず、日本や国際社会に向けて、私たち大人や保護者が一緒になって、目を向ける必要性があると感じています。伝統というものを、単に過去を受け継ぐだけのものではなく、新たな創造や改革を取り入れながら、古き良きものと新たなものを取り入れ、また、両校の良いところや伝統を融合して展開すること、そして高知における新たな学校としてスタートすることを、私たち保護者や大人は応援をしています。</p> <p>私たち南中高の保護者、また校友会、国際振興会、進取会など、関係者一同は、その思いを寄せているところです。</p> <p>最後になりますが、県教育委員会協議会のこの場でも、どのように絞り込み、またその理由は何か、未来ある子どもたち、また、私たち関係者や県民の方々に示していただければ幸いです。</p> <p>ご協議、ご検討のほどをよろしくお願いいたします。以上です。</p>
教育長	<p>はい、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、ただ今、ご意見をいただきましたけれども、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
各委員	<p>( 質疑なし )</p>
教育長	<p>それでは、委員の皆さんがご質問等ないようでございますので、ご意見をお伺いしたということにさせていただきたいというふうに思います。どうもありがとうございました。</p>
高知南中高関係者	<p>ありがとうございました。</p>

## イ 高知西高等学校関係者（校友会代表、保護者代表）

教育長	<p>それでは続きまして、高知西高等学校の関係の皆様から、ご意見を伺いたいと思います。</p>
高知西高校 校友会代表	<p>高知西高等学校、校友会会長です。保護者会の会長と一緒に参りましたが、順番といたしまして、まず私の方がお話をさせていただきまして、その後、保護者会の会長の方から補足等、またお話させていただくようにしたいと思います。よろしくお願い致します。</p> <p>それでは、まず、私の方の意見から述べさせていただきます。</p> <p>本日は、県立高等学校再編振興計画における確認事項である、両校の学校関係者の意見を聴く、そして、県民の意見を聴くことになっていることより、発言の機会をいただきました。そのお礼を申し上げ、高知西高校の立場で意見を述べさせていただきます。</p> <p>校名候補の検討は、本年2月に、第1回高知県立学校の校名に関する検討委員会が開催されて以来、8回の委員会を開催し検討を重ね、先日の11月10日に報告書が提出されたところです。その報告書では、「高知西」を含む4つの案が校名候補とされています。</p> <p>報告書では、校名候補を高知西とする理由について、統合校は、高知西高校の敷地を利用し、建物の多くもそのまま使用されることに加え、公募結果からも「高知西」を愛し、大切にしている関係者も多く、県民に親しまれ、信頼されている校名である。</p> <p>また、これまでの60年の実績と伝統、校風、知名度を生かし、バカロレア教育での新しい教育カリキュラムを、新生「高知西」に委ねるという期待も込めて、校名候補とするにふさわしい、としています。</p> <p>この候補とする理由は、この度の中高一貫教育校の校名を「高知西」としていただきたいという、私たちの気持ちが集約されている内容となっています。そのため、この推薦理由を基に、私どもの考え方を述べさせていただきますと思います。</p> <p>また、中高一貫教育校は、現在の高知西高校の敷地内に設置されることになっており、すでに工事も始まっていることを、申し添えさせていただきます。</p> <p>説明にあたり、一番「応募結果」、二番「実績と伝統、校風、知名度を生かすべき」、三番「バカロレア教育での新しい教育カリキュラムを高知西に委ねるべき」の3点に絞って、順次、意見の方を述べさせていただきます。</p> <p>まず1点目の、応募結果についてです。校名候補の応募につきましては、校名検討委員会の委員の皆様により、広く県民の皆さんに告知ができるようにと、様々な媒体を活用して取り組むようにとの要望がありました。こうしたこともありまして、教育委員会事務局の皆さんは、県の広報紙の活用など、色々な方法を取ったと思います。</p> <p>また、追加として、9月13日にはNHKのニュースで流したり、9月15日には高知新聞に公募の広告を出すなど、追加の告知をやりました。このことにより、校名公募のことが改めて県下全域に広く知れ渡ることになり、全体の応募数増加につなが</p>

ったものと思います。

応募数につきましては、ご存じのとおり、総数は8,696件で、中高一貫教育校分は8,559件でした。そして、校名候補数は145案であり、応募数が二桁以上の案は、第1位「高知西」7,924件、第2位「西」187件、第3位「高知国際」131件、第4位「西南」71件、第5位「高知西南」29件、第6位「国際」17件でした。

このなかで、「高知西」と「西」を合わせると、8,111件となり、約95%を占める圧倒的な応募数となりました。

この応募に際しましては、校名候補、その理由、応募者自身の氏名、年齢、郵便番号、住所等を必須項目として求められており、一つでも記入漏れがありますと無効となるもので、大変厳しい条件が付いており、146件もの無効票が発生をいたしました。

また、校名候補の理由を記入すること、つまり、文章を書くということは大変手間がかかり、抵抗があるものです。それにもかかわらず、高知西に対する7,924件もの多数の応募があったということは、高知西中学校・高等学校への大きな期待の表れであると思います。

また、この応募数は、全国的に見てもかつてない数字であり、大きな価値があると思うとともに、関係者一同、大変うれしく思いました。

校友会事務局の方にも、多数の応募用紙が寄せられました。その内容として、地元の鴨部や朝倉、鴨田地区を含む高知市全域、そして高知県内各地から、広く送られてきました。さらに関東や中部地方、近畿地方、九州など、主に関東以西の都府県からも、多数送られてきておりました。

また年齢層も、小学生から高齢者、80歳ぐらいの高齢の方までいらっしゃいました。顕著な例といたしまして、10代後半の高校の現役の生徒と思われる年齢の皆さん方と、その保護者と思われる年齢の方が、大変多いことも特徴として挙げられました。

こうした広範囲な地域や年齢層の方々から、高知西に対して、7,924票もの応募があったという価値は、高知西の教育の充実と発展を願っていることとなります。そして、これから高知西を支えていくという、熱い思いを持った7,924人もの人たちが、こうした意思を示すために、行動を起こしてくれたこととなります。

この多くの人たちの思いと、公募の多さをポイントに、校名を「高知西」と決定することこそ、広く県民の意見を聴いたことに対する、行政の答えになると思います。

次に2点目として、実績と伝統、校風、知名度を生かすべき、とのことについて述べたいと思います。

校名の公募や、こうした意見陳述があるということで、色々なご意見などを聴かせてもらっています。ある校友の方からは、「伝統とは長い歴史の裏打ちがあってこそ培われるとともに、時代の進展とともに発展していくものです。決して、一朝一夕で築かれるものではありません」との言葉をアドバイスされました。

高知西高校は、60年の歴史を重ねました。一方、県内には、

100年を超す歴史を持つ学校も複数あります。そうした学校と相対的に、歴史の長さだけで優劣を比べるのではなく、それぞれの歴史の長さに応じた、歴史と伝統を大切にすべきだと思います。その大切にすべきもの、守るべきもの、そして誇るべきものの一つが、校名であると思います。

高知西高校は、校訓として、「HARD SPIRIT 貫徹精神」を掲げています。校名がなくなるかもしれないという危機に際して、幾多の会合を、これまで重ねてまいりました。

そして、公募が実施されれば、さっき述べたように、校名を「高知西」とするために、一致団結してこの貫徹精神を発揮し、7,924件もの応募数を、協力して出すことができました。

また、「われら学ばん われら鍛えん われら睦まん」という精神を共有しているがゆえに、この危機に際して、年代や世代を超え、校名を守ることを共通の目的として活動し、7,924件の結果を出すことができました。

このほか、卑近な例を申し上げますと、この校名問題が持ち上がってから、質問や叱責、激励などの電話が多くかかっています。その内容は省略いたしますが、話の最後には、ほとんどの方から、「頑張ってよ、子どもたちのために」とか、「これからの子どもたちのために頑張れ」という言葉が出てきます。

些細なことかもしれませんが、このように後輩となる現役の生徒たちや、将来、高知西で学ぶであろう、見知らぬ子どもたちにまで思いを描くということ、こういう思いを連綿と受け継がれていること、そして、危機に際して思いを発露すること、積極的に行動を起こし貫徹することが、高知西の伝統であり、校風であります。

高知西のこうした伝統や校風などを、中高一貫教育校に引き継ぐことができれば、さらに充実し発展するものと、確信をいたしております。そして、こうした伝統や校風を誇りに思うのは、私だけではないと思います。

最後に、3点目の、バカロレア教育での新しい教育カリキュラムを高知西に委ねるべき、とのことについて述べたいと思います。

これまでの学校の取組を、一部ご紹介いたします。現在も継続している姉妹校との提携や、留学生の派遣や受け入れ事業を毎年行っている海外との交流事業があり、多くの生徒やその家族が経験をいたしております。姉妹校として提携をしている、オーストラリアの The Friend's School (ザ・フレンズ・スクール) とは、平成25年度に20周年の記念事業を行い、現在も交流を続けています。

このような地道な取組が下地となり、現在のスーパーグローバルハイスクール (SGH) に繋がっているものと思います。SGHには、平成27年度に指定校となりました。本年度は、昨年の取組を踏まえ、具体的な学習内容も取り入れられています。

また、探究型授業の一環として、国内は元より、海外では台湾やシンガポール、香港などに生徒を派遣し、大きな成果を上げています。

こうした活動を通じて、SGHに取り組んでいる高知西の校名は、すでに国内や海外に浸透している状況であります。

ソフト面でも、主体的な学びや、協働的な学びを通じた学習

の在り方をテーマとした、グローバル教育推進委員会が、本年度も設置されています。それは、自分で課題を発見する力、課題を解決する力、考える力を身に付けることを到達目標としており、第2回目の検討委員会が終わったところだと、お聞きをいたしております。

こうした委員会などを通じて、中高一貫教育校での6年間のカリキュラムのイメージや、バカロレア、IBの全体像のアップにも努めています。現在、IBの関係大学や高等学校への教員の派遣や、IB関係教員の招へいを行っており、当該教育プログラムの導入に向けての、準備が進んでいる状況です。

このように、ソフト面でも準備が進んでおり、バカロレア教育での新しい教育カリキュラムを高知西に委ねる、という期待に十分応えることができると思います。

まとめといたしまして、このように応募結果、実績と伝統、校風、知名度を生かすべき、そして、新しい教育プログラムを高知西に委ねるべき、との3点から見ても、中高一貫教育校の校名には「高知西」という名がふさわしく、県民の皆さんに広く受け入れられ、支持をいただいている校名だと確信いたしております。

また、これと併せて、脈々と息づいている貫徹精神をはじめとする、高知西の実績や伝統、校風などを、高知西高等学校の敷地内に設置される中高一貫教育校に生かし、継続して発展させていただきたいと強く思います。

そして、応募してくださった、7,924人の数の大きさと、その方々の高知西を応援するという熱い気持ちを理解し、受け止めていただきたいとします。この7,924人の方々は、高知西のサポーターとなるだけでなく、高知県の高等学校教育や高知県の教育行政を支えてくれる、7,924人の方々、サポーターとなってくださる方々です。この多くの方の熱い気持ちを無にすることなく、ぜひ大切にさせていただけるように、切にお願いいたします。

こうしたことを総合的に判断し、4つの校名候補案の中から、県内外の皆さんの圧倒的な支持があり、一番広く受け入れられている、高知西の校名に決定していただきたいと思います。切にお願いをいたしまして、私からの説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

続きまして、保護者会会長の方から意見を述べさせていただきます。

教育長

はい、ありがとうございます。

高知西高校  
保護者代表

P T A会長です。教育委員の皆様、今日はこのような席を設けてくださり、大変うれしく思います。本当にありがとうございます。

まず最初に、なぜ私たちが、高知西の校名が新中高一貫教育校にふさわしいと考えているのか、そのことについてお話をさせていただきます。

新中高一貫教育校は、6年間の学びを通して、グローバル社会で求められる人間を育てていこうとする学校でございます。その教育とは、今まで高知西高校が、スーパーグローバルハイ

スクールとして進めてきた教育内容、実績を基にして、より一層レベルアップさせていくものでございます。今の高知西高校の実力よりも、もっともっと高みを目指さないといけません。

それには、現場の教職員の皆さんの更なる努力、教育委員会様からの更なるご支援、県民の皆様からの応援が、必要となってくると思います。

私たちが、高知西の校名を求める理由は、新中高一貫教育校の未来を、今までの伝統と実績をもって担保していきたいと、強く願うからなのでございます。

山田高校さんのように、何度統合しても校名が変わらない学校もでございます。それは、土佐山田の人々に愛され、統合後も支援していこうという、県民の皆さんのお心の表れではないでしょうか。

新しい中学校とその校舎、高知県にとって、初めてのIBプログラムにとって、高知西の校名が必ずやプラスになると確信しております。

次に、公募で集まりました7,924票について申し上げます。この一票一票には、県民・市民の皆さんの大切な思いがこもっております。一般市民・県民にとりまして、公募というものは非常にハードルの高いものです。このご時世に、理由欄はともかくといたしまして、名前、住所、年齢まで記入せねばなりません。しかし、皆さん、高知県の教育をもっと良くしたい、その大局的な思いで応募してくださいました。

私はPTA会長として、保護者の皆様に公募への参加をお願いいたしました。在校生834人に対して、1,200通以上の応募がございました。これはあくまでも、応募用紙、紙ベースでの数ですので、若い人たちは応募フォームとか、メールといったもので応募して下さっています。ですので、在校生関係の総数はどれくらいであるのか、私には想像もつきません。

私は、いかに生徒の皆さんが、高知西高校を愛してくださっているかを、そして、いかに、これからの高知西に対する期待が大きいのか、そのことを痛切に感じ入り、とてもありがたく感激いたしました。

この公募の票数に示されました、高知県の高校教育をより良くしたいという熱い思いを、ぜひとも汲み取っていただきたいとお願い申し上げます。

最後に、私たち高知西高校関係者は、新中高一貫教育校を名実ともに素晴らしい学校に育てあげていくべく、これからも教育委員会の皆様や学校関係者と手を携え、できる限りの協力と援助をさせていただき所存でございます。

私たちPTA、校友会、国際交流推進会、この3つの会の結束力、行動力、そして8,000人の高知西サポーターの熱い思いを、新中高一貫教育校のために使っていただきたいと思っております。

以上でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

教育長

どうもありがとうございました。

それでは、ただ今いただいたご意見について、ご質問等ございましたらお願いいたします。

はい、どうぞ。

委員	<p>すみません、1点だけ質問させてください。</p> <p>校友会会長さんの方からのお話の中で、外部からのお話に、これからの子どもたちのために頑張れという、激励の言葉があったというお話がありましたけれども、高知西という名前になることと、これからの子どもたちのためになることは、どのように結び付くと、学校側として考えられているのか、教えていただいてよろしいですか。</p>
高知西高校 校友会代表	<p>はい、ありがとうございます。まず電話は基本的に、校友の関係者からの電話ということ、まずお伝えしておきたいと思えます。</p> <p>それで、内容につきましては、先ほど申しましたように、今回の校名問題、要は、ひょっとしたら西高の名前が変わるかもしれないという心配のお声。また、どうしてそんなことになったんだとか、また、変わらずに頑張れとか、というような内容です。</p> <p>この時に、やっぱり自分たちの卒業生の思いとして、高知西という名前を残す、あるいは新しく付けるというだけではなしに、やはりそのことは、今の在校生のためにもなる、また、これから高知西高校を受験するであろう、子どもたちのためになるという、そういう思いを持って、最後にそういう言葉が出てきたというふうに私は理解しております。</p> <p>やはり、自分たちのことだけではなしに、周りのことも、ちょっと自分たちの周りのことも考えながらやるという、そういう考え方を校風として持っているということ、お知らせしたかったわけです。</p>
教育長	<p>よろしいですか。</p>
委員	<p>はい。</p>
教育長	<p>そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>一つだけ。最初に、校友会会長さんの方から、報告書の理由については、学校関係の皆さんのお考えが大体盛り込まれているということでお話がありましたけれども、それはそういうことでよろしいでしょうか。</p>
高知西高校 校友会代表	<p>はい、それはもちろんたくさんの方の8,000人に近い方がいて、いろんな意見がありますけれども、主なポイントとして集約した場合に、この3点に絞って私は言いたいのです、そのご理解でよろしゅうございます。</p>
教育長	<p>そのほか、よろしいですか。</p> <p>それでは、ほかにないようでございますので、どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。</p>
高知西高校 関係者	<p>どうもありがとうございました。</p>

【今後のスケジュールについて】

<p>教育長</p>	<p>学校関係の皆様、本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第に従いまして、今後のスケジュールについて、ご相談をさせていただきたいと存じます。資料の10ページに、スケジュールを案として付けさせていただいております。</p> <p>最初に説明もあったとおり、12月議会で条例改正が必要ということですので、それを考えますと、11月の下旬までには、結論を出す必要があるということですので、3回の協議会で、決定をさせていただきたいということで、案としては考えております。</p> <p>今日、学校関係の皆様から、ご意見をいただいたところでございまして、あと2回ということですので、</p> <p>次回は、今日いただいたご意見について、我々としてどう受け止めるかというようなことですか、それから、最終的に校名を決定するに際して、どういったポイントで考えていくべきだろうかとかいうような、校名決定に際しての我々のスタンス、そういったところを、ご議論をさせていただければというふうに思っております。</p> <p>そういう形で、そういうご議論をさせていただいたうえで、最終的には11月の24日に、そういう議論を踏まえたうえで、皆様からも校名についてのご意見、要は、どの校名がふさわしいというようなことについて、ご意見をいただいたうえで、最終的にまとめさせていただきたいなど、いうふうに進めさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>( 了承 )</p>
<p>委員</p>	<p>1点確認ですけれども。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>検討委員会から出てきた4つの候補っていうので、ある程度絞り込んだ議論をこのまましていくということですのでよろしいでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>必ず、この4つでということでは決めておりませんが、ただ、先ほどからもご意見もありましたし、校名検討委員会のなかでの議論の内容をお聞きすると、やはりこの4つからということではないかと思っておりますけれども、そこは委員の皆さんのご意見もお聞きをしたいですけど、どうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(質問された委員に対して)何かいい案があるんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>いえいえ。</p>
<p>委員</p>	<p>一応、これだけの検討委員会で議論を尽くされているわけですから、私の意見としては、この4案の中から選ぶというのは、適当ではないかというふうに考えます。</p>



委員	<p>私も、検討委員会を8回も開いていただいて、また今、両方の気持ちも私たち、受け止めたつもりでおりますので、やはりこの4つで、あと1回2回のうちに頑張っ決めてたいと思います。</p>
教育長	<p>そういうことでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>( 了承 )</p>
教育長	<p>(質問された委員に対して) 委員もそういうことでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>両校のご意見とも、基本的にはその路線でよろしいかと思いますが。</p>
教育長	<p>はい。絞り込む一つの観点ということにはなるとは思いますけれども、今日の時点で、この4つの校名の中から一つに絞らせていただくということは、確認させていただきたいというふうに思います。</p> <p>あと、先ほどの進め方でよろしいですか。</p>
各委員	<p>( 了承 )</p>
教育長	<p>それでは、特にご意見がないようでしたら、次回は、先ほど申しましたような形で、決定をする際の我々の考え方といえますか、スタンスといえますか、そういったことについて議論をさせていただいて、最終11月24日で、それを踏まえて、最終的に皆様から考えを聞かせていただいたうえで、決定をしていくと。そういうことにさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。</p> <p>予定をしておりました協議事項は以上でございますが、委員の皆様から、それ以外に何かございましたら。特にないようでしたら、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>意見ということでは、まだないんですけども、我々、教育委員として再編振興計画、それ自体は信念を持って、我々は決断したと思っているわけですけども、それに至る過程のなかでは、両校の関係者の皆様の、たくさんの思いを聴かせていただいて、また今日、校名に関して、それぞれのご意見、思い、そういったことを聴かせていただいたわけですけども、先ほどの議論にありますように、検討委員会自体も、計8回にわたってこういう議論を尽くされて、4案に絞られたということ。</p> <p>一方で、この学校パンフレットも立派なものができ、これはどうしてもいい学校を作っていくにはいけないと、これは我々教育委員も、そのように思っているわけです。</p> <p>そういった意味で、いろんなことを考え合わせますと、これはなかなか決定が難しいなというところは、今日のところ、正直な気持ち、そういうふうに思います。</p> <p>そういった意味では、両校とも関係者の皆様が言われましたように、将来のこの統合校の子どもたちのために、ぜひとも</p>

教育長	<p>我々、予断を持たずにいい議論をして、校名を決定していきたいという思いでおります。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>言われるような方向で、ぜひ、全員が納得をするということには、なかなか、今のご意見を聴いても難しいとは思いますが、そういうなかでも、我々としても最善の議論を尽くしたうえで、決めさせていただければというふうに思っておりますので、委員の皆様、どうぞよろしくお願いしたいと思っております。</p> <p>ほかにはございますか。</p>
-----	---

## 【閉会】

教育長	<p>ほかにはないようでしたら、事務局から連絡事項があればお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい。事務連絡させていただきます。スケジュールのところで、次回、第2回の日時をご連絡させていただきます。</p> <p>予定でございますが、21日、時間が18時30分から、場所は県庁の正庁ホールを予定しております。</p> <p>それから、第3回は、24日、木曜日になりますが、同じく18時30分から、場所はここの高知共済会館を予定しております。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、予定しておりました時間より大分早く終了いたしますけれども、以上で本日の会を終わりたいと思っております。学校関係の皆様、本当にありがとうございました。</p>